

生きる力を育む書写教育のあり方
—基礎基本の習得と日常書写力向上をめざして—

1. 設定理由

日本の伝統と文化の原点である『文字』を正しく書くことは、『生きる力』の育成のために必要なことである。そのために、書写の基礎・基本を身に付けることが欠かせない。しかし、現代社会の状況を考えた時、文字を正しく書く機会は非常に減ってきている。だからこそ、書写の授業において、児童・生徒が、自分の課題をしっかりとをもって主体的に学び、他者との話し合い活動を通して、自己評価・相互評価をして振り返り、新たな課題を見いだせるような活動が必要であると考え。さらに、書写の授業のみならず各教科が連携を取り合い、文字を書くことを楽しめる環境作りも重要な役割を果たす。

こうした活動の中から、児童・生徒の文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字に対する意識の向上を図っていくことは、書写力の日常化につながり、さらに日本の文字文化を継承していく上でも重要であると考え。以上のことから、基礎・基本の習得と日常の書写力の向上が『生きる力』を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説1 基準を明確にすることにより、字形を整えて書こうとする意欲が生まれ、児童・生徒が主体的に取り組むことができるであろう。

仮説2 他教科・領域との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで書写への意欲が高まり、日常生活に生かすことができるであろう。

3. 研究内容

- ①学習の進め方の統一を図ることで、児童・生徒が主体的に学ぶことができるようにする。
- ②他教科・領域との関連を図り、書写の日常化へつなげる。

4. 結論

- 基準を明確にしたことで、児童・生徒一人ひとりがめあてを意識して書くことができた。
- 学習の進め方を全ての単元で統一したことで、児童・生徒が主体的に学習を進めることができた。
- 書写の学習で習ったことを生かして丁寧に書こうとする児童が増え、ノートや廊下掲示の文字がきれいになった。
- 文字を書くことを楽しむ児童・生徒が増えた。

生きる力を育む書写教育のあり方
—基礎基本の習得と日常書写力向上をめざして—

“生きる力を育む書写教育”の捉え

- <①書写の授業で学ぶ> → <②書写の授業で考える> → <③書写の授業で身に付けたことを多方面で生かす>
- ・基礎となる姿勢
 - ・鉛筆や筆の持ち方
 - ・点画や一文字の書き方
-
- ・課題設定の際、これまで学習してきたことが使えないかを意識させる。
-
- ・日常生活で
 - ・他教科・領域の学習で

↓
日常生活に生かすことのできる
書写の能力を養うことへつながる

この流れを繰り返していくことで生きる力を育むことになるのではないかと考えた。また、国語科書写が単独で学習を完了させるわけでないこと、お手本のようにうまく書ける児童・生徒を育てることが目的ではないことも生きる力を育む書写教育を行う上で、忘れてはならないことだと考える。

1 主題設定の理由

(1) 学校の職員体制から

これまで、書写の毛筆の授業は、教頭や教務が受け持つことが多く、ほとんどの教員が書写の授業を行ったことがないという状況であった。そのため、書写の授業のやり方が分からない、書写は手本を見て、何枚も書いて上手に書けたものを提出させればよいと思っている職員が多くいた。このことは、児童・生徒も同じ意識でいた可能性が高い。

また、書写の授業を担当が行っていなかったため、書写で身に付けたことを他教科・他領域で生かすということも課題となっていた。

そこで、全ての教員がどの学年を受け持つことになっても、同じように書写の授業ができるようにしていく必要があると考えた。

(2) 新学習指導要領から

新学習指導要領では、国語科の目標を次のように示している。

言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」としていた現行の学習指導要領と比較してみると、「日常生活に必要な国語につ

いて」「日常生活における人との関わりの中で」という言葉が入ってきたように「日常生活」という言葉が強調されていることが分かる。だからこそ、実生活や学習場面に役立つような指導のあり方を考えていかなければならないと感じた。

また、「何ができるようになるか」「何をどのように学ぶか」が重視されている今、児童・生徒が主体的に学ぼうとしなければ、身に付けた力を日常生活へ生かしていくことは難しいと考える。そして、学びの地図と新学習指導要領で言われているように、教員がカリキュラムマネジメントを確立していくことも児童・生徒らが身に付けた力を日常生活へつなげていくのに重要であると考えます。

(3) 現代社会の問題から

1980年代以降、パソコン、携帯電話、スマートフォンなどが急速に普及してきた。また、内閣府ではソサエティー5.0を提唱し、新たな未来社会を創出しようとしている。このように、情報伝達手段や文字環境が変化し、日常生活から文字を書く機会が減少してきている。しかし、授業時のノートや連絡帳などを通して、手書きする機会が多い児童・生徒にとって依然として文字指導は重要な役割を占めていること、文字は相手に自分の考えや意見を伝えるための伝達手段としても重要であることは忘れてはならない。

2 研究仮説

仮説1：基準を明確にすることにより、字形を整えて書こうとする意欲が生まれ、児童生徒が主体的に取り組むことができるであろう。

児童・生徒が主体的に学習するという事は、何が自分の課題なのかを一人ひとりが見つけられることが大切である。そのためには、児童・生徒が自身の文字の実態を知り課題解決のための方法を自ら見つけ、学習に取り組んでいく必要があると考える。

手立て

- 学習の進め方の統一（小学校では、加良部スタンダードの活用）
- 児童・生徒自身による実態把握
- 学習課題を設定（共通課題・個人課題） ○練習用紙の個人作成

仮説2：他教科・領域との連携を図り、書写の学習を活用する場面を設けることで書写への意欲が高まり、日常生活に生かすことができるであろう。

書写の学習で身に付けた力を日常に生かすために、表現する場を設ける。その手段として、他教科・他領域との関連を図ったり、学校における諸活動に生かしたりする場を設けていく。

手立て

<小学校>

- 他教科・領域との関連を意識した年間計画の作成 ○活用できるノート指導
- 相手を意識した掲示物作成の指導

<中学校>

- 特別活動における書写学習の活用 ○書写学習を生かした美術科の指導

3 研究内容

実践1 小学校（仮説1）

1 単元名 第3学年 学習のまとめ『光』

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、今まで学習した内容を生かして『光』を書く。『光』には、「横画」「縦画」「曲がり」「点」といった基本点画と、「はらい」「はね」といった筆使いなどこれまで学習してきた大体の要素が含まれている。そのため、これまでの学習を振り返り、そこから自分のめあてを選ぶことで、課題を焦点化して取り組むことができる題材となっている。

しかし、「曲がり」から「はね」に向かう筆使いについては、初めての扱いとなるので、今まで学習した「曲がり」「はね」の書き方を生かして書くよう支援する。

(2) 児童の実態（男子16名 女子12名 計28名）

児童は、今年度より初めて毛筆の学習を始め、意欲的に学習に取り組んでいる。道具の準備や片付けも、4月の頃に比べ、手際よくできるようになってきている。また、始筆・送筆・終筆は、「トン、スー、トン」の言葉を使って、筆運びのリズムを多くの児童が身に付けてきた。しかし、墨汁を付ける量や筆の持ち方、筆圧に注意して整った文字を書くことが難しい児童や一文字一文字を書くことに一生懸命で、これまでに学んだことを意識して題材を書くことまでに至っていない児童もいる。また、筆を立てて持つことや、ひじを上げて持つことが身に付いていない児童もいるので、正しい持ち方を掲示しておくとともに、机間指導の際に声をかけることで常に意識できるようにしている。

また、他教科・他領域の授業の様子を見ると、書くことに慣れて速さも増してきていることがうかがえる。しかし、字形については、速く丁寧に書ける児童もいれば、丁寧に書くことへの意識が低くなり、文字の乱れが見え始めている児童もいる。

(3) 指導観

毛筆学習においても、他教科・他領域の学習過程と同様に自らが課題をもち、その解決を図りながら学習を進めることを大切にしていく。全単元とも同じ授業の進め方で行うことで、思考力や表現力をはたらかせて主体的に取り組むようにしたい。

まず導入では、手本なしで書いた作品と手本とを見比べて違いを児童がを見つけ、自ら課題をもたせるようにする。その際、既習の筆使いが『光』の文字に生かせないかを尋ねること、授業で学んだことを他の書く活動にも活用する力を身に付けさせていく。

次に、練習する段階では、半紙は8分割折りにし、かご文字を取り入れて練習をさせる。そうすることで、どの児童でも、始筆の位置や終筆の位置、文字の大きさなどに気を付けて書くことができると考える。

学びを振り返る段階においては、ペアの友だちとまとめ書きを見合う時間をとることで、お互いの進歩や努力したところを認め合えるようにする。

このように毎時間同じように学習を進めていくことで、生涯にわたって使用する文字の基礎・基本を理解させ、文字を正しく整えて書く能力や文字に対する関心を深めさせていきたいと考える。そして、毛筆で学習したことをペンや鉛筆で書くときに生かすことができる児童を育てていきたい。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>

これまで学習したことを生かして自分のめあてを選び、進んで書こうとしている。

<思考・判断>

これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選ぶことができる。

<技能>

これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。

<知識・理解>

これまでに学習した筆使いや字形について、理解することができる。

<書写の日常化>

常に字形に気を付けて書こうとする意識をもつことができる。

4 指導計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価規準
1 (本時)	○3年生で学んだ毛筆の筆使いを想起して、「光」を書く。	これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選び、書くことができる。 【思考・判断（発言・作品票）】
1	○自分のめあてに沿って、「光」を書く。	これまでに学習した筆使いや字形について、理解することができる。 【知識・理解（作品）】

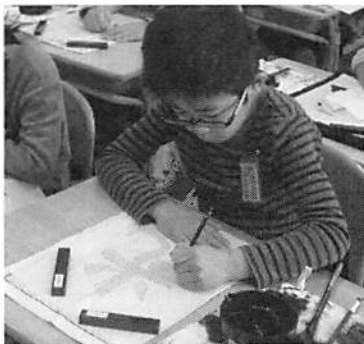
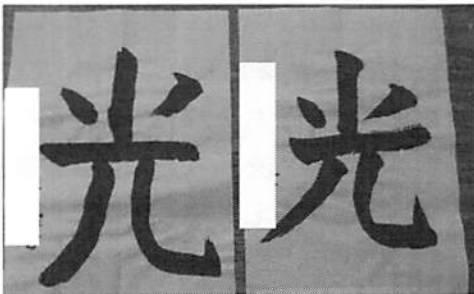
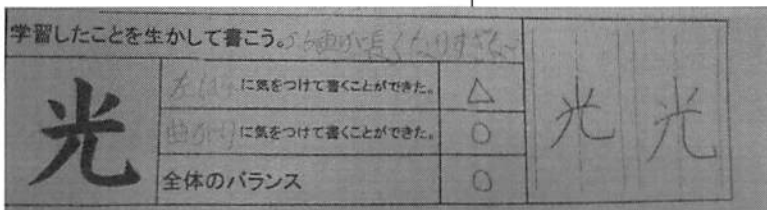
5 本時の指導（1／2）

(1) 目標

<思考・判断>

これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選び、書くことができる。

(2) 展開

時配	学習活動と活動内容	○指導・支援 ◎評価	資料
6	1 「光」の試し書きをする。	○手本を見ないで書かせる。	
5	2 試し書きと手本を比べ、基準確認をする。	○これまでに習ってきた点画を想起させ、「光」の書くポイントを見付けさせる。	手本
2	3 学習問題を立てる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> これまで学習してきたことを生かして書こう。 </div>			
5	4 筆使いを確認する。	○教師の演示から、ポイントをつかませる。	水書板
10	5 練習をする。	○かご文字を作り、練習させる。	
			
15	6 「光」をまとめ書きし、試し書きと比べて評価する。	○自分の書いた作品を基準に沿って自己評価する。 ○友だちに作品を見てもらい、基準に沿って相互評価をする。 ◎これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選ぶことができたか。 【思考・判断（発言・作品票）】	自己評価カード
			
			
2	7 次時の予告をする。		

実践2 中学校(仮説1)

1 単元名 第2学年 行書で書いてみよう『栄光』

2 単元について

(1) 単元観

書写は国語の学習の中における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に位置し、本単元はその(2)のア「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して読みやすく速く書くこと」を学ぶものである。本時は前時までに行った行書の学習を受けて、「栄光」を書く。楷書と行書の違いを学び、行書の点画の特徴や筆使いの特徴を学習した後に、形の変化を学ぶための単元である。

(2) 生徒の実態

この学年の生徒は入学当初から、文字を美しく整えて書くことに対して興味関心を持っていた。学校全体で取り組んでいる「掲示物の文字を美しく整えて書くこと」について、意識して取り組んでいる姿もあり、校外学習のまとめとして行う新聞作りなどの文字はとても丁寧に書かれている。入学時のアンケート結果からわかることは、今は文字を書くことが苦手であっても、これから先社会に出た時には、美しく整った文字を書ける人になりたいという気持ちがよくわかる結果であった。

本校では、書写の学習を他教科や各種行事に生かすことにも力を入れており、校舎内に毛筆で書かれた掲示物が多く見られたり、生徒の作品があらゆる場所に展示されていたりする。そして、その文字が年を経るごとにだんだん整ってきているのがわかる。そのような環境に生徒達を置くことで、書写に対する意識も高くなっていくのだということがわかる意識調査であったように思う。

(3) 指導観

ここでは行書で「栄光」を書く。これまでの課題に比べ、「栄」も「光」も形の変化が大きく、筆使いや書くスピード、つなげ方が難しい課題である。試し書きをしてみるとその難しさに改めて気づく生徒も多いであろう。そこで、試書と手本を丁寧に比較してみて、生徒達に自己批正をさせる。自らの力で課題を見つけ、それを解決する力をつけるためである。楷書の学習時から始めた、かご文字や骨文字の作成を通して、行書の書き方を身につけ、正しく整った文字で行書を速く書けるように、指導していきたい。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>

遺されてきた文字や日常生活の文字から、行書とはどんな書体かを理解しようとしている。

<思考・判断>

これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選ぶことができる。

<技能>

これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。

<知識・理解>

楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解することができる。

<書写の日常化>

さまざまな活字が活字デザイナーの手書きをもとに作られていることを理解し職業観を意識することができる。

4 指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価規準
1	○楷書と行書の違いを学ぶ。 ○行書の特徴を理解した上で、行書の筆使いを学ぶ。	楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解することができる。 【知識・理解（発言）】
1	○点画の連続と形の変化を理解して行書で「大木」を練習する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【技能（作品）】
2 (本時1/2)	○点画の連続と形の変化を理解して行書で「栄光」を練習する。 ○自己課題を決定し、自分で練習用紙を作ることで課題を解決する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【思考・判断（作品）】
1	○点画の連続と省略の仕方を理解して「平和」を練習する。	これまで学習したことを生かして、筆使いに気を付けて字形を整えて書くことができる。 【技能（作品）】
1	○硬筆で行書の練習をするとともに、身の周りにおける行書の文字に関心をもつ。	残されてきた文字や日常生活の文字から、行書とはどんな書体かを理解しようとしている。 【関心・意欲・態度（発言）】 さまざまな活字が活字デザイナーの手書きをもとに作られていることを理解し職業観を意識することができる。 【書写の日常化（発言・作品）】



5 本時の指導（3／6）

(1) 目標

<思考・判断>

自己課題を決定し、自分で練習用紙を作ることで課題を解決することができる。

(2) 展開

時配	学習活動と活動内容	○指導・支援 ◎評価	資料
1	1 前時の学習を振り返る。		
2	2 本時の目標を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 練習用紙の作成を通して、行書の基本を理解し、「栄光」を書こう。 </div>			
5	3 黒板に掲げた「栄光」の行書体を見て、楷書との違いを確認する。	○「栄光」の行書体を提示し、「点画の連続や点画の形の変化」について気づかせる。	行書体の手本
10	4 手本を見て試書する。		
5	5 手本と自分の作品を比較し、各自の課題を作る。	○字形、点画の向き、つなげ方などに注目できるように助言する。 ◎これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選ぶことができたか。 【思考・判断（発言・作品票）】	
			
10	6 課題解決のための練習用紙を作成する。	○かご文字、骨文字を黒板に提示し、各自で作成する。	かご文字と骨文字の見本
			
7	7 各自が作成した練習用紙で練習を行う。	○練習用紙の文字を塗り絵するような書き方はさせないようにする。	
5	8 本時の清書を行う。	○試書の段階の課題を意識して書かせる。	
5	9 試書と清書を見比べ、良くなった点と直さなければならない点とを見つけ、評価カードに記入する。	○評価カードの記入と共に、次時の課題を明確にさせる。	評価カード

読者の力	人間関係形成・社会対応能力
読者の力	自己理解・自己管理力
読者の力	読者の力
読者の力	読者の力

成田市立加良部小学校		年間計画表												3年									
		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
教科	国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	書写	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	社会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	算数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	理科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	音楽	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	図画工作	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	体育	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	保健	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	英語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
道徳	※空費箇所あり ※映像教材活用推奨																						
総合的な学習の時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
特別活動	学級活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	児童会活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	クラブ活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
																						216	247
																						31	
																						70	70
																						175	176
																						90	90
																						60	60
																						90	60
																						101	101
																						4	4
																						15	35
																						35	35
																						39	39
																						2	

実践4 中学校（仮説2）

書写の学習を取り入れた活動（中学校）

活動場面	書写の学習の生かし方
生徒会活動 ・郡大会壮行会 ・ベストノート コンクール	・各部活動ごとに今年度の大会、コンクールに向けた目標を毛筆で書き、全体で発表したり、校内に掲示したりする。 ・家庭学習ノートの使い方や記入の仕方について、見やすく整った文字で書いている生徒を表彰する。
学校行事 ①校外学習 ②合唱コンクール	①校外学習や修学旅行のまとめ学習時、新聞作りに書写の学習を生かした書き方をする。 ②合唱曲の紹介のめくりを毛筆で書く。
学級活動	学級で決めた学級目標を毛筆で書き、学級に掲示する。
他教科との関連 ・美術科	・美術科の学習—卒業する3年生が、これからの目標を毛筆で書き、そこに絵を入れたり、篆刻作品を入れたりする。

4 結論（○成果 ▲課題）

<小学校>

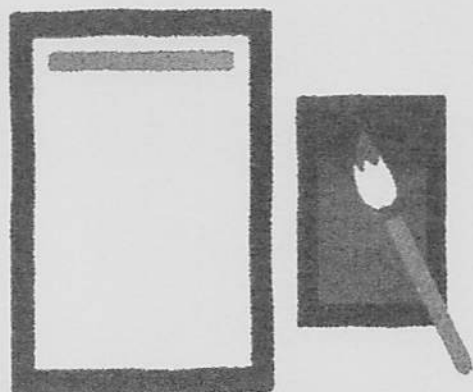
- 基準を明確にしたことで、児童一人ひとりがめあてを意識して書くことができた。
- 学習の進め方を全ての単元で統一したことで、児童が主体的に学習を進めることができた。
- かご文字を使った練習を行うことで、文字の大きさのバランスがとれたり、始筆、終筆の位置を意識して書いたりすることができた。
- 書写の学習で習ったことを生かして丁寧に文字を書こうとする児童が増え、ノートや廊下掲示の字がきれいになった。
- 年間計画表の変更や加良部スタンダードを作成したことから、全ての教員が他教科・領域との関連を意識したり、書写の授業の組み立て方を学んだりすることができた。
- ▲試書から学習課題設定をするのが難しい児童とそうでない児童との個人差が出てしまったので、これからも書くポイントを意識した授業を継続的に行っていく。
- ▲数値で測れない部分もあり、この手立てが児童にとって有効であったかどうかを検証しきれない面があった。

<中学校>

- 書写で学んだことを、他教科や領域の活動に生かすことができるようになった。
- 相手を意識して、文字の大きさや文字の濃さ、用いる用具などを工夫する生徒が増えた。
- 作成する場面によって、楷書と行書の使い分けをする生徒が出てきた。
- 国語科の教員のみならず、他教科の教員の中にも文字意識への高まりが見られた。
- ▲書写の授業時数の取り方がまとめ取りになってしまったので、継続的に授業を行っていくようにする必要があると感じた。

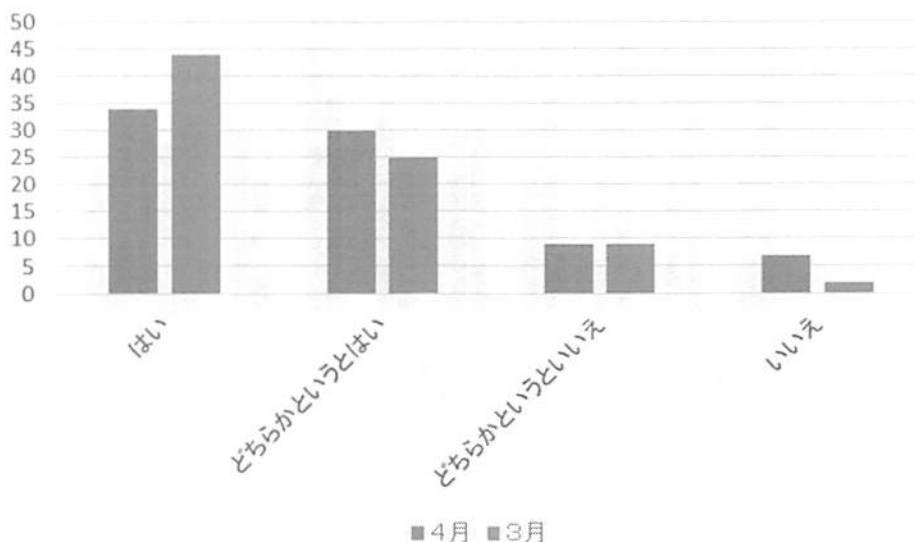
資料編

- | | |
|---------------|---------|
| 1 アンケート結果 | p1～p3 |
| 2 授業の様子と児童の作品 | p4～p7 |
| 3 加良部スタンダード | p8～p10 |
| 4 中学校生徒の作品 | p11～p13 |



<実態調査> 平成30年度加良部小学校3年生 80名実施

①書写の授業は好きですか。



②そう答えた理由は何ですか。

うまくかけたらすごくうれしかった。せいがあるから。

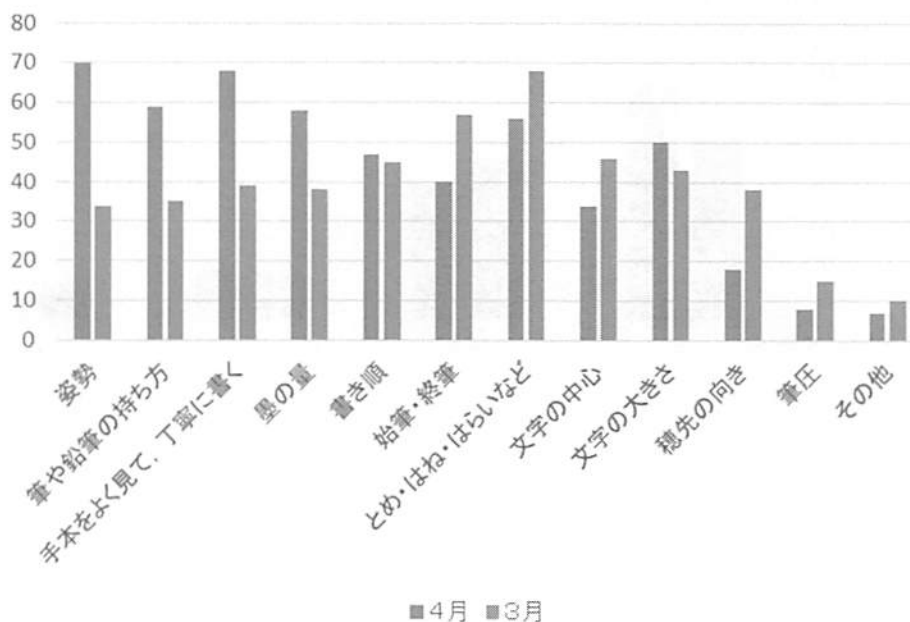
書いているときがワクワクして楽しいから。

書写の授業をしていると自分がまえより字がきれいになっていよう。それがうれしかったから好きです。

きれいに書けるうれしいからです。もし、うまくかけなかったら、どこをなおしたらいいかを考えるの楽しいから。

書写の勉強がほかのことにもいかせるからです。

③文字を書く時、特に気を付けていることは何ですか。(複数回答可)



※その他 (4月)

- ・立ち歩かない 2名
- ・手の位置
- ・こぼさない
- ・消しゴムで丁寧に消す
- ・間違えない
- ・筆がパサパサにならないようにする
各1名

(3月)

- ・文字のつながり 6名
- ・名前のバランス 4名

④書写を学ぶことで役に立ったことはありますか。

字のつながりやしせいが役に立った

字がきれいにかけるようにいつしかできてきた。

がしっぺなさをいじきしてくるようになった。

字がきれいにはかかできるようになった。

トで字が2年生よりも上手になったこと。

始筆、終筆を上手にかけるようになり、字がきれいになった。

⑤1年間の書写の授業を終えて、できるようになったことや楽しかったことは何ですか。

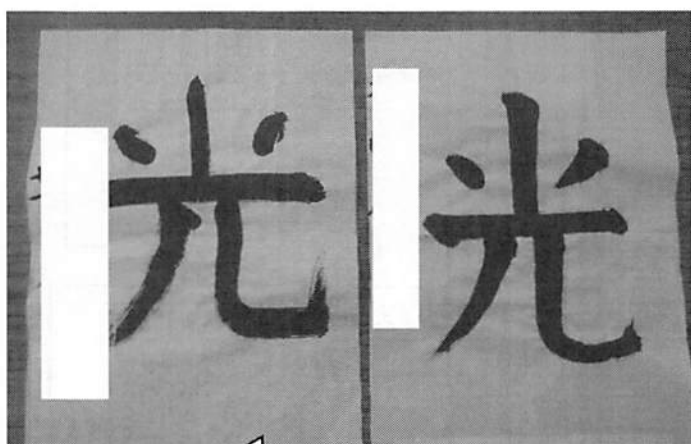
文字をていねいに書くのが
すきになった。

えんぴつで字がうまく書けるようになった。

字のつながりや字のきれいさを気にするようになった。

もっと字をかきたくなりました。

<授業の様子>



<個人の課題>

- ①左はらいが雑にならないように気を付けて書く。
- ②始筆・終筆をしっかりと出す。

<個人の課題>

- ①2画目のとめを1、2のリズムでしっかりとめる。
- ②曲がりからのほねを丁寧に書く。

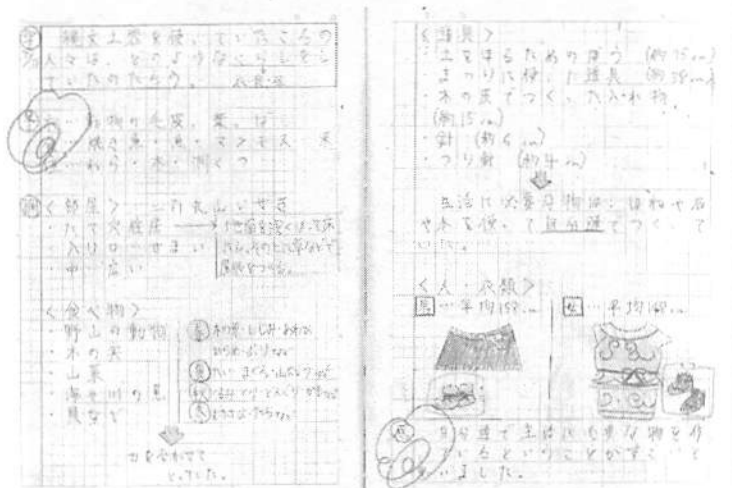
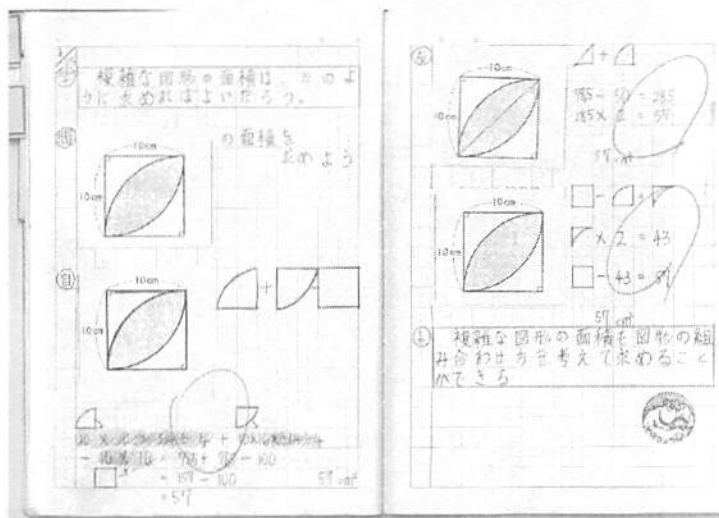


<個人の課題>

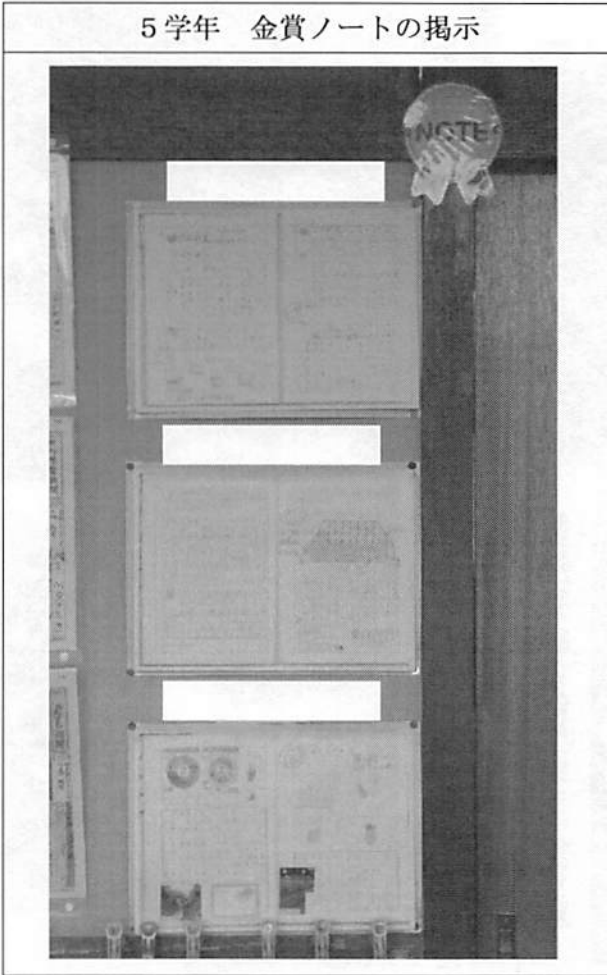
- ①「歴」という文字の中と外の作りのバランスに気を付ける。
- ②「史」の左はらいから右はらいにいくときに文字のつながりを意識する。

<他教科・他領域との関連 全校での取り組み>

6 学年児童のノート



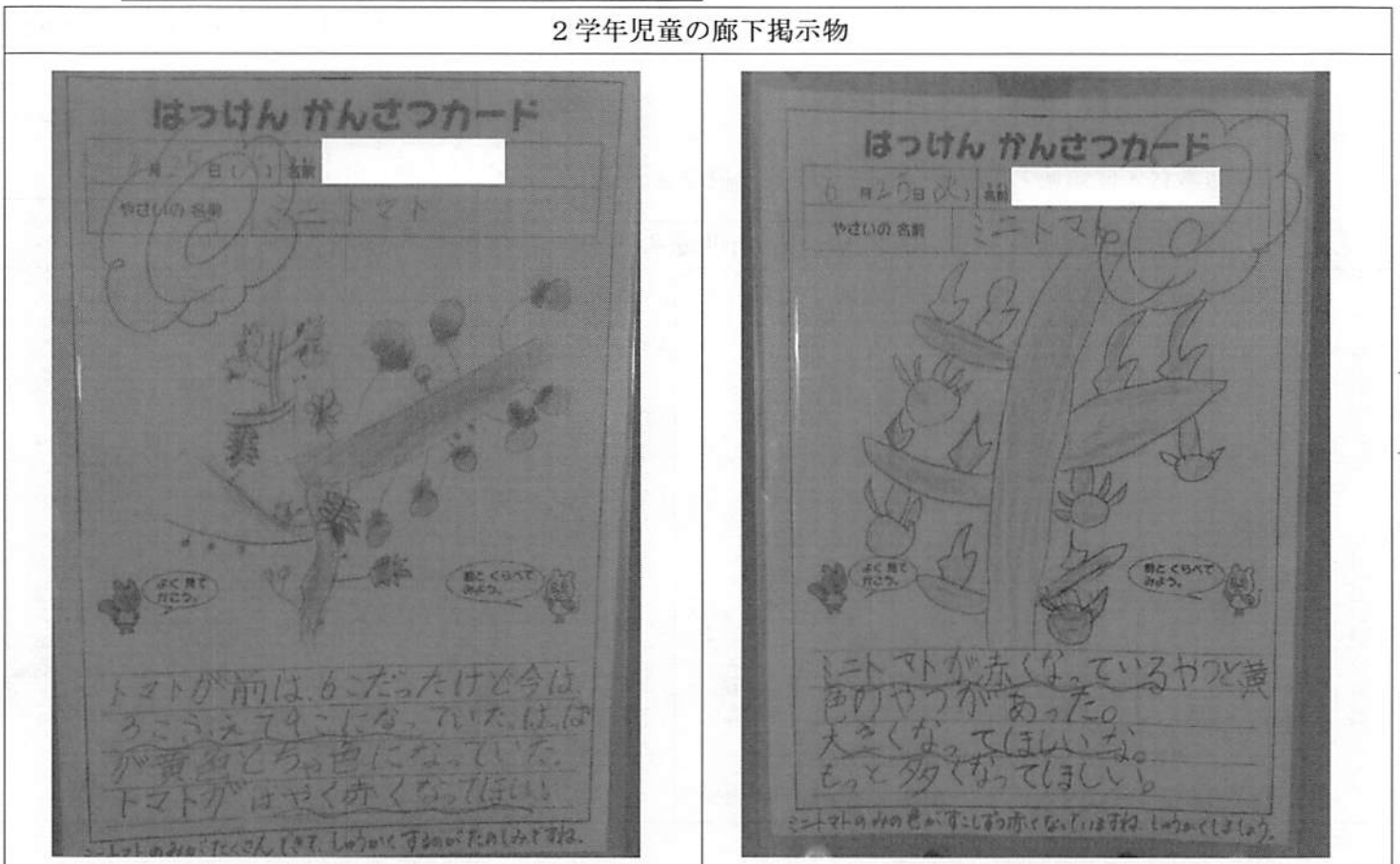
5 学年 金賞ノートの掲示



委員会活動の掲示物



2 学年児童の廊下掲示物



<加良部スタンダード>

書写（毛筆指導について）

（ア）目標

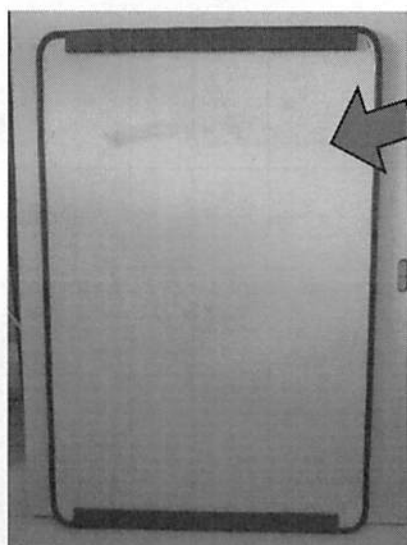
- ・ 基礎・基本を大切に、文字の形を整えて正しく書くことができる児童の育成。

（イ）教師用の用具の場所

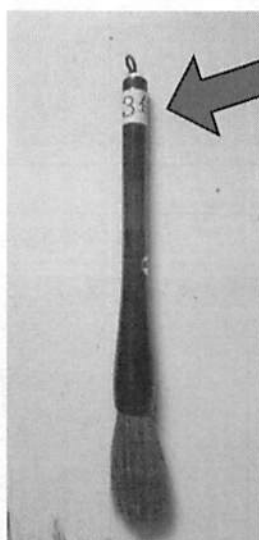
- ・ 水書板、水書板用の筆

⇒ 3、4年生は2階教材室 5、6年生は3階教材室

※ 水書板を使用する際は、個人の筆ではなく、学年に担当されている筆を使います。

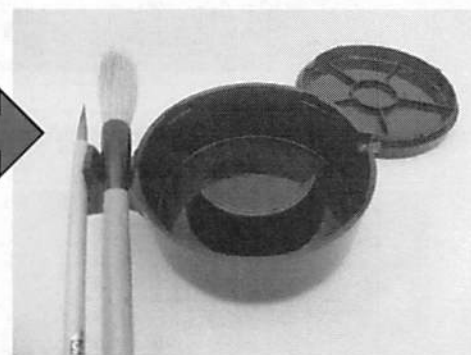
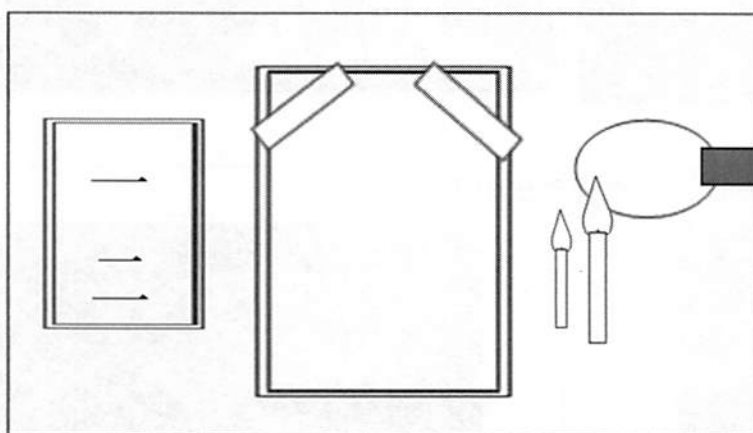


水書板は、白い面と赤い面がありますが、基本は白い面を使います。



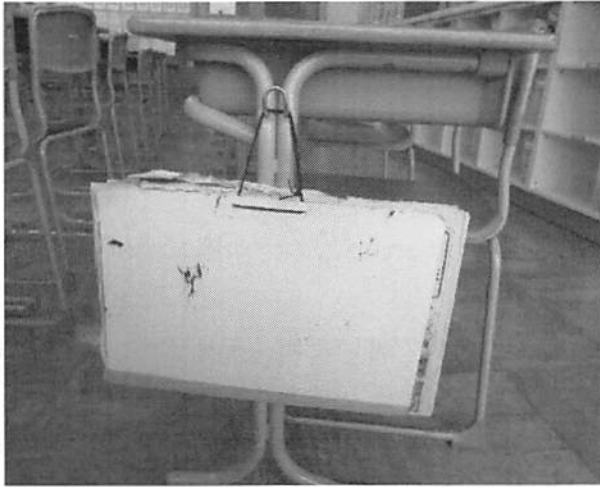
筆の上に、黄色のシールが貼ってあるものを使ってください。

（ウ）用具の準備の仕方について



※墨池のふたと墨汁は、書道バックにしまえます。墨池が正しい向きで置かれているか確認してください。また、墨池の下には雑巾を敷きます。

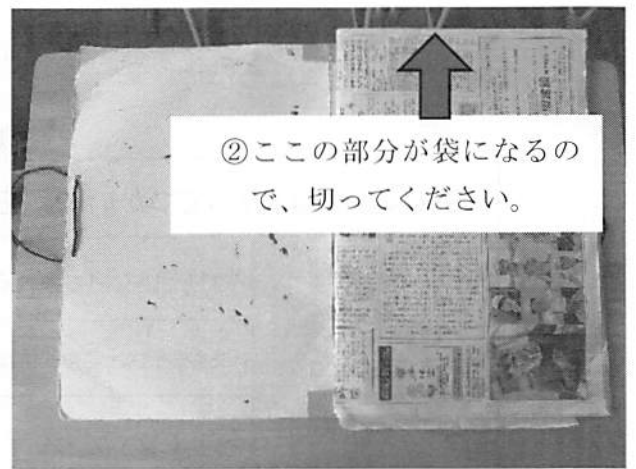
墨の量については、少なすぎてもかすれてしまうので、墨池の底が見えなくなる程度の量を入れさせてください。



作品ばさみは、机に下げて使います。
基本、通路側に下げます。

<作り方>

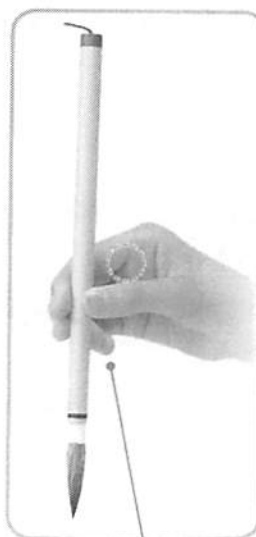
板目用紙2枚をガムテープでつけ、ひもを通して作って下さい。中に入れる新聞紙は1日分程度とし、折って袋になった部分を切ります。6年生まで使用するのので、板目用紙は集金にて購入をお願いします。綴りひもは個人で1本購入というわけにはいかないので、学級費で購入をお願いします。



(工) 筆の持ち方と姿勢



中指で支え、薬指と小指をそえる。



薬指で支え、小指をそえる。



(オ) 学習の進め方

1. 試書 手本を配る前に、今までの学習を生かし自分の力で書く。
2. 基準決め 手本と自分の作品を見比べて、どこに注意して書いたらよいか基準を決める。
3. 学習のめあて 学習問題をたてる。
4. 練習 ポイントを確かめて、囲い文字で練習する。
⇒指導書の中に囲い文字が入っているので印刷して使って下さい。
5. 学習の振り返り 手本を見ずに書いた作品と清書で書いた作品を見比べ、友達と文字のよくなったところを話し合う。
6. まとめ 鉛筆でまとめ書きをする。その後、作品票を作品中央に貼って提出する。

(カ) 作品票について

のりづけ		
「おれ」と「はね」のふでづかいに気をつけて書こう。		
カ	ふでを回さないでおれることができた。	
	ほ先をそろえながらゆっくりはねることができた。	
	全体のバランス	
		<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">強カ</div>

- ・ ◎○△で評価させ、判子を押すかコメントを入れるなどして、教室に掲示をしてください。専科の先生は評価後、すぐに担任の先生に返却し、教室に掲示をしてもらってください。

(キ) 用具の片付けの仕方について

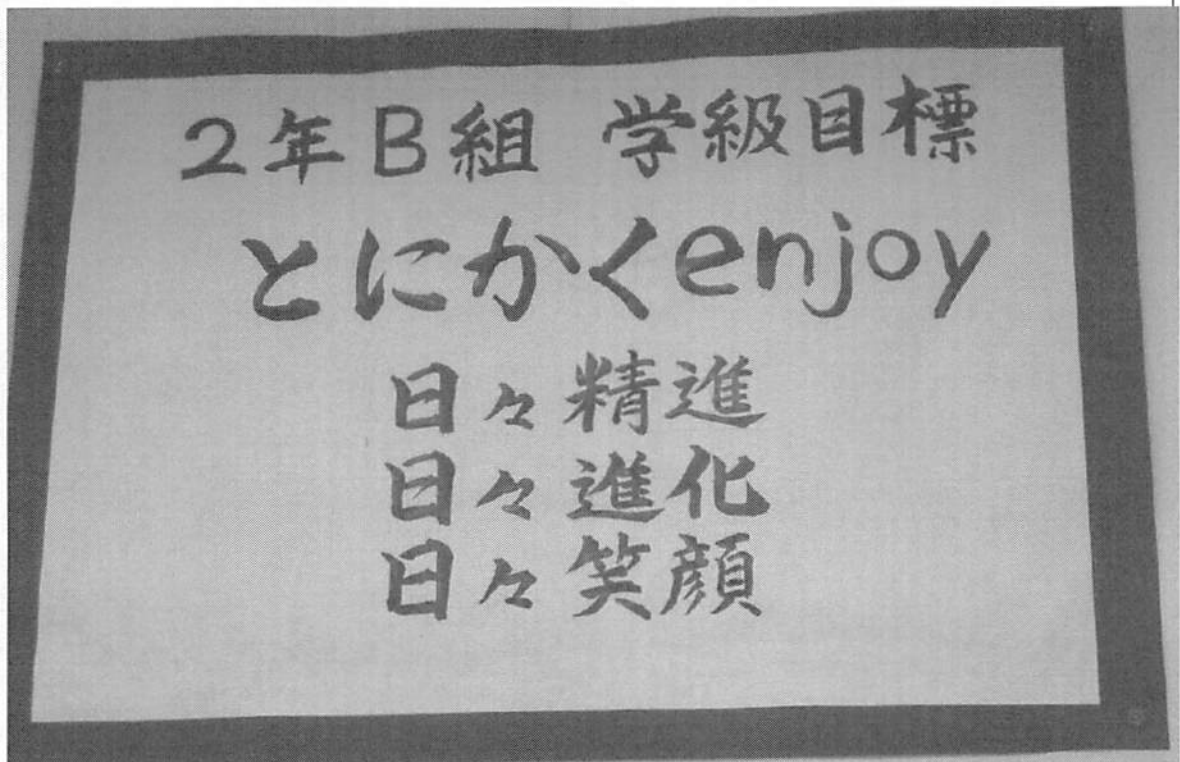
- ・ 大筆、小筆、墨池に付いた墨は、練習した半紙などで拭き取ります。そして、大筆、墨池は家に帰ってから洗います。小筆は洗いません。
- ・ 原則持ち帰るものは、筆、墨池とします。しかし、教室に管理することが難しいという場合は、書写バックごと持ち帰らせてください。
- ・ 作品は、作品ばさみに入れたままにせず、適宜持ち帰らせるよう声かけをお願いします。

(中学校編)

校外学習後の個人新聞



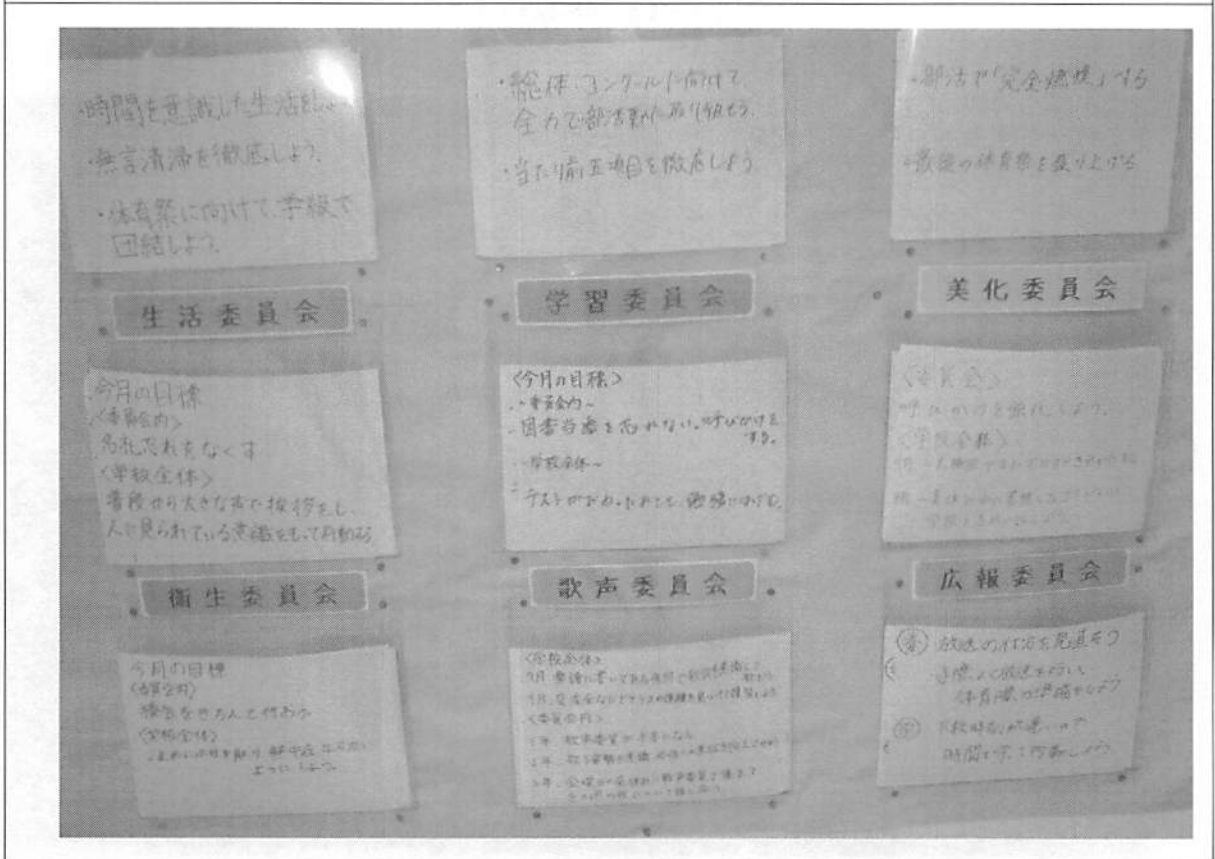
生徒が書いた学級目標



生徒会活動 郡大会壮行会



生徒会活動 毎月の目標



生徒会活動 全校ノートコンクール

